

地域におけるコミュニケーション活動:「放射線講演会」



11.15 茨城県都市福祉事務所長 研修会



12. 8 大洗町立夏海小・南中 保健委員会



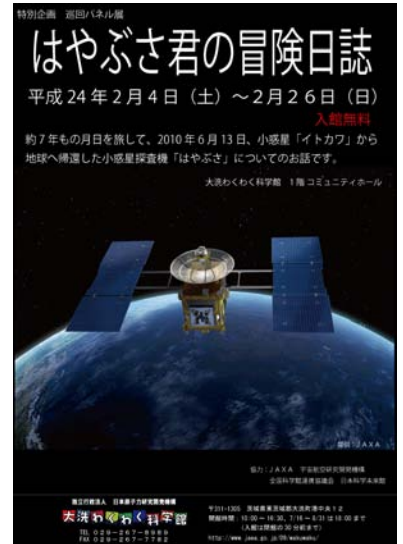
12.15 大洗町立磯浜小学校 保健委員会

大洗わくわく科学館

特別企画イベントを開催します

科学館内の1階部分の展示物等は、まだ震災の影響により稼働できない展示物もありますが、通常の状態に戻れるよう引き続き復旧作業を進めて参ります。

科学館におけるイベントについては、2階のラウンジや1階の「創る部屋」などを使い通常通り開催しております。2月には、特別企画イベントとして2/4(土)~26(日)に巡回展示パネル展「はやぶさ君の冒険日記」、わくわく体験教室として、2/11(土)~12(日)「ふわシールをつくろう!」・2/18(土)「バルーンフェスタ」・2/26(日)「レゴロボットを動かそう!」が開催されます。なお、現在は入館料は無料となっております。皆さまのご来館、イベントへのご参加をお待ちしております。



住所:茨城県東茨城郡大洗町港中央12
電話番号:029-267-8989 FAX:029-267-7782
開館時間:10:00 ~ 16:30 (7/16~8/31は18:00迄)
休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)



巻頭挨拶

未曾有の災害から早10ヶ月余が過ぎ、被災した大洗研究開発センター各施設の補修も順調に進み、非常用電源設備を中心とする震災を踏まえた安全対策の強化も図りました。今後は、これまで大洗で培ってきた優れた技術と諸施設を有効に活用して、東電福島原発事故への対応により一層の注力をして行くこととしております。



昨年12月、大洗において第4回汎用照射試験炉に関する国際会議を開催し、国内外の研究者や地元関係者の多数の参加を得てJMTRの再稼働に弾みを付けるのみならず試験研究炉の必要性、重要性をアピールすることができました。目下、JMTR及びHTTRでは地震の影響評価を行っており、所定の対策を施した後に定期施設検査を受検して今年秋に両炉の運転再開を目指し取り組んで参ります。一方、高速炉開発では、「常陽」において平成26年度の再起動に向けて炉内干渉物対策を鋭意進めるとともに、この度の地震の影響で遅れていた「冷却系機器開発試験施設(略称:アテナ施設)」の建家が、この1月末に完成する運びとなりました。

当センターでは、原子炉を用いた原子力関連の研究開発のみならず、我が国の原子力の将来を担う人材育成にも積極的に取り組んでおり、昨年はインターンシップ制度で工業高校、工業高専を始めとする多くの学生や一般の方々に、大洗の原子力施設を用いて原子力を身近に学んで頂きました。

今後とも、読む人の立場に立った分かり易いセンターだより作りを心掛けますので、ご意見等をお寄せ下さいませ幸いです。

ニュース&ピックアップ

第4回 汎用照射試験炉に関する国際会議

「第4回 汎用照射試験炉に関する国際会議(ISMTR-4)」を平成23年12月5日(月)から9日(金)までの5日間、大洗パークホテルで開催しました。会議の冒頭に、ドイツ、スイス及び米国からの招待講演があり、脱原子力発電を表明しているドイツやスイスにおいても照射試験炉等を利用した原子力の研究開発を推進されていることが紹介されました。また、米国でも従来の原子力政策は継続され、照射試験炉は大学等のユーザーコミュニティから積極的に利用されていること等の紹介がありました。なお、本会議には、14カ国から111名が参加し、照射試験炉の現状と将来計画、照射技術、照射利用を推進するための世界ネットワーク構築等に関して意見交換を行いました。

なお、招待講演には、茨城県や立地自治体・議会、プレス等も出席いただき、各国の汎用照射試験炉の現状を理解していただく、良い機会となりました。



第2回総合防災訓練

平成23年度の第2回総合訓練を12月21日(水)にHTTR(高温工学試験研究炉)施設を対象施設として、茨城県沖を震源とする震度6強の地震発生(第1回総合訓練H23.9.28と同様)、HTTRの全ての交流電源喪失、原子炉を冷却する全ての機能喪失、電源復旧時における非管理区域での火災発生などの想定により実施しました。また、自衛消防隊と連携した使用済燃料プールへの給水を目的とした水利確保訓練及び大洗町消防本部と連携した消防活動訓練を実施しました。

今回の訓練では、H23.3.11東北地方太平洋沖地震後の安全対策設備等(通信や監視機能等の維持のための非常用発電機、燃料の輸送と給油のためのタンクローリ車など)の機能を確認することができました。



整備資機材の配置状況



消防活動状況

工業高校インターシップ

平成23年12月13日(火)～14日(水)の2日間、大洗研究開発センターにおいて、茨城県立水戸工業高校の高校生10名をインターンシップ(就業体験)生として受け入れました。

インターンシップの主な内容は、マニプレータ取扱実習やグローブボックス操作体験、「常陽」運転シミュレーション操作訓練などを行い、生徒達も熱心にインターンシップを行っていた様子でした。

2日間の体験を終えた生徒からは「貴重な体験をした。」「難しかったけど有意義な2日間を過ごせた。」「原子力研究についてもっと勉強したい。」などの意見が多く出ました。

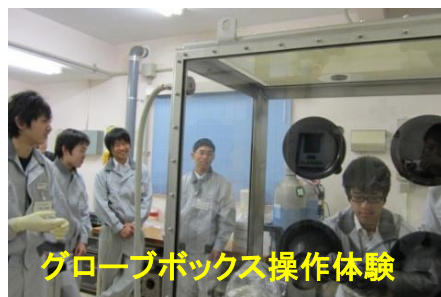
今後とも、次世代の若い力が原子力に興味を持つきっかけとなるような取り組みを支援してたいと思います。



マニプレータ取扱実習



「常陽」運転シミュレーション操作訓練



グローブボックス操作体験

材料試験炉(JMTR)

- ・12月5日に外部有識者が出席した第8回JMTR 運営・利用委員会を開催し、再稼働時期の変更、東北地方太平洋沖地震による照射利用への影響、照射利用拡大への取組み、国際化、原子力人材育成等に関する取組みについて報告しました。
- ・JMTR 原子炉施設の平成23年度の施設定期検査(停止中の機能維持に係る検査)を受検し、これに合格しました。また、JMTR 原子炉施設及び照射設備の平成23年度施設定期自主検査を完了しました。
- ・原子力機構のリサーチフェローとして韓国KAERIから1名を受入れ、照射条件を高精度に制御した技術的価値の高い照射データを取得するための先進照射キャプセルの検討を開始しました。



第8回JMTR 運営・利用委員会の状況

高速実験炉「常陽」

- ・放射性廃棄物廃棄施設等の施設定期検査を受検し合格しました。
- ・設備機器の点検・補修等として、非常用ディーゼル発電機の点検及び非常用ディーゼル発電機の冷却水配管の交換の点検整備等を継続しました。
- ・これまでの炉内試験結果等を踏まえて、MARICO-2 試料部の回収及び炉心上部機構の交換に向けた具体的な手順、安全対策等について検討を進め、治具等の製作に向けた準備を継続しています。
- ・平成23年12月16日に「常陽」再起動後の利活用等に関して、米国PNNLと打合せを行いました。
- ・平成23年11月25日に廃棄物処理建家(JWTF)固体廃棄物貯蔵庫において、固体廃棄物の火災発生を想定した、平成23年度「常陽」避難訓練を実施しました。



ディーゼル発電機の点検の様子

高温工学試験研究炉(HTTR)

- ・平成23年2月1日から開始している定期検査作業として、定期点検作業として原子炉格納容器、燃料交換機、補助冷却設備、非常用空気浄化設備等の点検を実施し、異常のないことを確認しました。
- ・安全保護回路の連動装置及び警報装置、後備停止系駆動装置、燃料交換機、新燃料貯蔵ラック、使用済み燃料貯蔵ラック等の施設定期検査を受検しました。
- ・カザフスタン国立原子力センターの副総裁がHTTRを訪問し、施設を見学するとともに、共同研究についての意見交換を行いました。



カザフスタン国立原子力センター副総裁の見学風景